

N0249

# 泉南走りう会

連絡先  
泉南スポーツ社  
0724(83)4653

## 1. 例会

十一月十日(日)

泉佐野市民マラソン大会のため例会は中止致します。

十一月二十四(日)

場所 種河神社

時間 九時集合

## 2. 佐渡トライアスロン大会

岡田

九月一日に行われたこの大会には、以前から参加したいと思いつく度か申し込んだもの、ことごとく阻まれ続けてきたが、今年出場できる事となり無事完走の事が出来た。佐渡といえは昔は流人の島であり、又、日本一大きな島。そして絶滅の危機にある朱鷺の繁殖などで知られるが一般の観光に行くには遠い島であることをつくづく感じた。家を出発して宿に着くまでの所要時間十一時間であった。翌日は十四時からの受付及び競技説明会までの間、下見を兼ねて北廻りに観光する事にし、先ずは、佐渡金山へ。後は、これといつて見る物もなく只海岸線を走るのみとなつてしまった。コース的にはアップダウンが結構あり、自分にとって苦手なだけに不安がよぎる。時間の関係で島の北側、約九十キロについての下見は出来たが、半分は、不安を残したまま大会当日のお楽しみとなる。レース当日は、四時過ぎに起床。おにぎり朝食を済ませ車で会場へ。そこには既に多くの選手が集まり最終チェックを受けていた。両腕にゼッケンNoを書いてもらい準備万端。六時のスタートの合図と共にスイム三・八、バイク一八〇、ラン四十二キロの長い一日の始まりである。海は波もなく穏やか。しかしスタート直後は何時もと同じく凄じいバトルで何度と無く海水を飲む。しばらくしてコースの内よりに入り何とか自分のペースで泳げるようになってしまったのである。それでも何とかスイムを終えバイクラックへ。自分の設定時間八時間を切る事を目標に最初から飛ばし過ぎないようにと自分自身に言い聞かせながらペダルを回す。北側は海岸線も起伏にとび景色もなかなかのもの。競技スタートから五時間を過ぎる頃、南側に入る。ここで応援風景が一変したのには驚いた。北側では道路脇にござをしき太鼓や一吋缶を叩いて応援してくれる人がいたのに、南側に入ってから応援がほとんどなく寂しい中で走ることとなる。コースはアップダウンが少なく快適な走りが出ていた。しかし最後の難所が一六十キロ過ぎに待ち受けていた。疲れ切った足に追い打ちをかける様に約五キロの急な坂が続く、頂上付近のエイドでバイクを降りようとした時に左足を踏んでしまい動けなくなる。ここまで来てリタイアは出来ない。スプレー、ストレッチをし、何とか走り出したが少しの坂でも足がビクビクし無理が出来ない状況で、どうにか佐和田町へ戻って来る事が出来た。この頃になると気温もグングンと上昇し何度あるのか分からない、そんな中ゆつくりとランをスタートするが、足が上からず腰も伸びない状態での走りが続く。途中Bタイプのランナーが続々と帰ってくるが、さすがに疲れた様

子。そして十キロ地点でAタイプのトップとすれ違う。コースとしては、田園の中を走る処が多く、ほとんど人影が無くただランナーが点々としていて何となく寂しい感がある。おまけに距離表示があまり見あたらず一度此処で何キロかと尋ねると二十キロ過ぎだと言われ、こんなに走っているのに未だ半分も行っていない事にガックリ。しかし時間が経つにつれ随分涼しくなり前半と違い足も軽く結構走れる様になった前を走るまばらなランナーを追い越す事もできた。ゴールの手前五キロ地点で反射テープの付いた襦袢を渡され、佐和田町内では真つ暗な町中で、言葉を掛け応援してくれる人がいて、何とも有り難い。そして佐和田町商店では、灯りでの歓迎と多くの人が手を振り、拍手し「お帰り」「お疲れさん」「もう少し頑張つて」の声援で長かった一日を思い出すと急に胸が熱くなり、目頭がうるんで涙が出そうになるのをこらえ軽く手を振つて答え、そしてついに感激のゴール。時計は十九時十三分であった。ゴール後、家内からあまり遅いのでリタイアしたのかと心配したよの言葉と今日の気温が三十五度まで上がり、リタイアした人が多く、バイクもいっぱい収容されて運ばれていたと聞き納得するところであった。大会後も二日程は完走の余韻のせいか興奮してなかなか寝付けなかったが、苦しい事をやり遂げた満足感であろうか。これがあるからやめられないのかも。次は何処に挑戦しようか思案中である。

## 2002 SADO Island Long Distance INTERNATIONAL TRIATHLON 2002 佐渡国際トライアスロン大会



2002.9.1

A:S3.8Km B180.2Km R42.2Km B:S2.0Km B105.0Km R21.1Km

二〇〇二年十月二十日、高野山ウルトラマラソンに重大な決意をもって臨みました。これまでは1000kの大会という、400k位のジョグと600kの大会ぐらいに考えて走っていたのですが、これから上を目指すためには前半からつっこんでいかなければならないと判断。今回は最初からペースをあげて走り、つづけたらリタイヤしてもいいつもりで参加しました。目標タイムは9時間前後としたのですが、エイドが少なくポトルを持って走らなければならないことを考慮して9:25と宣言して参加しました。

高野山は午前0時以降1時間おきの時差スタート。5時スタートは11名。岡田さん、徳山さんと一緒というのが心強かったです。スタート直後、5時スタートの殆ど最後尾。しかし徳山さんと岡田さんがひっぱる4位集団につられてなかなかよいスタートが切れました。7k過ぎで6人ほどの集団と別れ、20k地点でようやくトップに追いつき、そのうちの一人と一緒に進みます。黒川峠ののぼりで先行し、「もう少しついてきてほしかったなあ」と思っている下りで抜かれました。その人は下りが強く、梨の木峠ののぼりで引き離すもの下りで抜かれ、花坂のエイドには同時到着。序盤から競うことでペースが上がりますのに注意しながらのぼり高野山の折り返し到着は時点で4時間32分。まあ、こんなものか。下りの途中で岡田さん、徳山さんがしっかり走っているのを確認。6時スタートの二人のランナーとの差がどれくらいあるか気になったけど、花坂のT字路を曲がってしばらくしてすれちがったので、この時点で一番は確信しました。梨の木峠から黒川峠までは帰路は遠いこと。ペースダウンしていることを実感しました。いつもながらのなかなだるみで、終盤復活することを信じて、桃山のエイドまで行けばあと20k、なんとかなると信じて我慢の走り。

残り20kの桃山のエイドには7時間20分を少し過ぎての到着。「9時間切りは少し難しいか」と思ったのですが、エイドを出発してすぐ、思わぬ幸運が。高野山は応援は皆無なのですが、歩道よりよってきて停止する一台の車が。真鍋さん一家が車の中から応援を送ってくれました。思いもかけないところで知合いの応援を受けて元氣百倍。ゴールまでしっかりみすえ走ることができました。残り12k地点では、おなかには減っていないしタイムも気になるもの、素通りするのつまらないのでトン汁をよばれました。

残り5kのインターの角は8時間30分を少しまわったところ。残り30分あることでやったと思っただけなのに、ここからは街中、信号も多いので気を引き締めなおして走ります。お城手前の交差点で信号につかまっていたときに時計を確認すると残り7分。歩行者に道を譲る気持ちの余裕もあつたのウニングランを楽しむことができました。高野山はタイムを競う大会ではないけれど、次回につながる走りがありました。村岡のときは大会後二週間ともに走れなかったのですが、高野山では折り返しの状況から岡田さん、徳山さんのゴールタイムがほぼ予想でき、そのまゝに風呂にいつて体のケアができたため、それほどダメージも残らずに済みました。

雨の予報にもかかわらず、結果として雨は全く降らず、最高のコンディションだったのですが、数年前の福知山、昨年の泉州に引き続き、私のゴール直後に大雨になるというジンクスは生きていました。

序盤、ひっぱってペースメーカーしてくださった徳山さん、岡田さん、途中激励をいただいた徳山さんのご主人、真鍋さん、ありがとうございました。



2002年月別走り込み

名前・月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
石井 繁貴	102	272	252	267	289	399	209	391	479			
	102	374	626	893	1182	1581	1790	2181	2660			
今仁 正義	200	197	212	197	202	153	170	160	208			
	200	397	609	806	1008	1161	1331	1491	1699			
岡元 邦博	150	230	64	190	42	16	0	24				
	150	380	444	634	676	692	692	716				
岡田 盛助	122	187	285	180	262	184	175	160	241			
	122	309	594	774	1036	1220	1395	1555	1796			
芝本 鈴代	413	301	252	260	371	311	388	437	371			
	413	714	966	1226	1597	1908	2296	2733	3104			
出口 牧	250	365	440	430	440	270	250	150	600			
	250	615	1,055	1485	1925	2195	2445	2595	3195			
徳山 早苗	327	304	435	347	455	405	350	360	360			
	327	631	1,066	1413	1868	2273	2623	2983	3343			
西野 盛隆	249	134	34	99	234	290	288	203	172			
	249	383	417	516	750	1040	1328	1531	1703			
堀池 一夫	120	121	154	126	131	135	128	128	142			
	120	241	395	521	652	787	915	1043	1185			
宮下 哲	127	91	89	151	126	90	103	81	91			
	127	218	307	458	584	674	777	858	949			
西 和秀		140	175	130	110	75	75	65	115			
		140	315	445	555	630	705	770	885			
栗野原会長				200	50	100	100	100	93			
				200	250	350	450	550	643			

今月は出口さんが600kと驚異的な距離を走られたようです。機関紙に掲載し始めてからは最高走行距離となります。また、出口さんに劣らず石井さん、芝本さん、徳山さんも400k近く走られています。ただただ感心するばかりです。岡元さんの走行距離については、連絡がつかせませんでしたので次回機関紙で報告させていただきます。